

平成14年9月25日

環境事業団 環境保全・廃棄物事業部

部 長 鍋木 儀郎 (5251-1030)

安全対策室長 山本 昌宏 (5251-1032)

## PCB 処理施設に係る検討委員会報告書並びに安定器処理に係る 部会報告書のとりまとめについて

環境事業団では、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会」において、今後の各地域の事業が共通のベースとして活用できるものとして、高圧トランス・コンデンサ等の処理施設が満足すべき技術的条件及び環境・安全対策について検討を進めてきましたが、本日、委員会報告書がまとまりましたので、お知らせいたします。

また、同委員会のもとに設置した「技術部会」において、東京事業に適用することを前提に、PCB使用安定器の処理について検討を進めてきましたが、今般、部会報告書がまとめられ、本日開催の委員会に報告いたしましたので、併せてお知らせいたします。

### 1. 経緯

環境事業団では、わが国最初の PCB 廃棄物の広域処理施設として、北九州事業の第1期の施設設計を進めているところであるが、これに続いて現在各地で広域処理の事業化に向けた準備が進められている。

「ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会」では、北九州事業に関してこれまで2度の委員会報告書を取りまとめてきたが、これらの内容を踏まえつつ今後の各地の事業検討に共通のベースとして活用できるものとして、本日、委員会報告書「ポリ塩化ビフェニル廃棄物(高圧トランス・高圧コンデンサ等)処理施設に係る技術的条件及び環境・安全対策について」を取りまとめた。

一方で、本年4月に広域処理の受入表明がなされた東京事業においては、処理しなければならない PCB 廃棄物のうち、蛍光灯等の安定器が象徴的なものとなっていることから、安定器処理に係る技術的蓄積の整理を行い、処理の事業化を図ることとした。

そのため、本年7月、本委員会のもとに技術部会を設置し、処理技術保有企業のヒアリングを含む集中的な検討を経て、今般、部会報告書「PCB 使用安定器の処理について」を取りまとめ、本日開催の委員会に報告を行った。

## 2 . 委員会報告書の概要

委員会報告書では、北九州事業の報告書と同様に、高圧トランス・高圧コンデンサ等を処理対象として、その処理を行う施設が満足すべき技術的条件及び環境・安全対策をとりまとめた。

具体的には、北九州事業の報告書の内容を踏まえつつ、処理技術保有企業のヒアリングにより、各社の昨年秋以降の取組状況を把握した上で、処理の安全性確保等に関する基本的な考え方を整理するとともに、現在採用可能な PCB 分解処理方式として、脱塩素化分解方式、光分解方式、水熱酸化分解方式及び還元熱化学分解方式の 4 つの処理方式について、これらを採用する場合に各処理工程が満足すべき具体的な条件を整理した。

さらに、安全性確保等に関する基本的な考え方を踏まえて、4 つの処理方式の特徴に応じた処理施設における安全確認、モニタリングの考え方などの具体的な環境・安全対策について整理した。

## 3 . 技術部会報告書の概要

技術部会報告書では、業界団体に対するヒアリング等を通じて、PCB 使用安定器の特徴を整理するとともに、処理技術保有企業に対するヒアリング等を通じて、安定器処理に係る実証等の最新の取組状況を把握し、これらを踏まえて、現時点において事業化の見通しがある処理システムについて整理を行った。

それらの処理システムの特徴を踏まえて、処理施設の満足すべき技術的条件及び環境・安全対策として、安定器処理に特徴的な内容について整理するとともに、実際の処理は高圧トランス・コンデンサ処理と組み合わせて行うことになるため、その組合せの考え方やその際の条件等について整理した。

## 4 . 今後の予定

今後、各地域ごとに設置する事業部会において、本委員会報告書をベースとして、処理方式や環境・安全対策等についての専門的な検討を進めることになる。

各地域の事業部会の開催は、それぞれの地域の状況に応じて、事業化に向けた具体の検討に着手できる状況が整ったものから順次開催する。